



グローバル人材育成教育学会

THE JAPAN ASSOCIATION FOR GLOBAL COMPETENCY EDUCATION

URL <https://www.j-agce.org>

発行人 アーナンダ クマーラ

ニューズレター 第 55 号

2026 年 2 月 20 日発行

本号は、今年度最後のニューズレターとなります。今回は、以下の内容についてお知らせいたします。

- (1) 理事長挨拶
- (2) 会長挨拶
- (3) 支部大会開催の案内
- (4) 理事会報告
- (5) 編集委員会報告
- (6) 管理事務局からのお知らせ

(1) 【理事長挨拶】

様々な価値観を理解し、世界の「平和と繁栄」に
貢献する人材を生み出すために

大六野 耕作

(明治大学顧問・名誉教授)

まずは、2 期 4 年にわたり、大過なく本学会の理事長を務めさせていただきましたことに対し、会員の皆様に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

近年、私が強く感じておりますのは、社会全体において人々の寛容さが徐々に失われつつあるのではないかと、という点です。その背景には、各国で顕在化している**構造的所得格差の拡大**があることは否定できません。本来、すべての人々に平和と繁栄をもたらすと期待されていたグローバル化は、結果として一部の個人や集団に利益を集中させたにすぎなかったのではないかと、という疑念が広がっています。また、その是正を担うはずの国際機関や各国の民主政治も、実際には既得

権益を維持する制度装置に過ぎなかったのではないかと、との不信も生じています。

この 4 年を振り返るだけでも、多くの国々において、こうした疑問や不満が既存の国際秩序や民主的統治の正統性に対する不信へとつながり、反グローバリズムやポピュリズムの潮流を強めてきたように思われます。さらに、その動きは、これまで国際社会を支えてきた**価値の多様性**や**基本的人権の尊重**といった規範的基盤を軽視する傾向とも結びついているように見受けられます。

しかしながら、経済活動は歴史上かつてないほど相互依存を深めており、その流れを単純に巻き戻すことはもはや現実的ではありません。また、地球温暖化は年々深刻化しており、地球規模での協調的対応なくしては人類の持続可能な存続そのものが危機に直面します。加えて、核兵器の管理、サイバーセキュリティの確保、人工知能関連技術のガバナンス、感染症対策など、いずれも国境を越えた協力なしには解決困難な課題が山積しています。

このような時代にあって、国内外の課題を冷静かつ実証的に分析し、多様な価値観や利害を持つ人々と粘り強く対話・協働しながら実効性ある解決策を構築できる人材の育成は、これまで以上に重要性を増しています。「グローバル人材育成教育学会」が、まさにそのような現代的課題に対し、学術的知見と実践的知恵の双方から応答し続ける学会として、さらに発展することを心より祈念しております。

(2) 【会長挨拶】

学会の歩みと次の挑戦：

グローバル人材育成の新段階

アーナンダ クマーラ

(Lanka Nippon Biztech Institute 学長)

2013年に初めてグローバル人材育成教育学会の存在を知ったとき、私は直感的に「この学会の活動は、これからの社会に必ず大きく貢献する」と感じました。それ以来、私は一会員として、そして学会の「大ファン」として、学会活動に参加してまいりました。

とりわけ忘れがたいのは、2018年、中部地方で初めて開催した全国大会です。私が初代学部長を務めた名城大学外国語学部のキャンパスに、全国から多くの会員の皆様が集っていただきました。設立第5周年という節目にふさわしく、学会として第6回全国大会は400名を超える参加者を迎え、大きな手応えとともに、学会の広がり可能性を実感した機会となりました。

そして皆様に支えられ、このたび私自身は2期にわたり会長を務めることができました。まずは、継続的に学会を支えてくださる会員の皆様、関係各位に心より御礼申し上げます。

この10余年、日本社会を取り巻く環境は、まさに「グローバル化の加速」とともに動いてきました。教育界・産業界では、急速に浸透するグローバル化に対応し、その流れを国の活性化へつなげるために、「グローバル人材育成」を真剣に考えるべきだという認識が広がりました。文部科学省による支援制度なども整備され、各大学がそれぞれの特徴に合わせて独自の教育プログラムを構築する姿は、今や当たり前前の景色になりつつあります。

一方で、少子高齢化に伴う人手不足は深刻さを増し、外国人労働者の受け入れと、多文化共生のあり方を社会全体で考えざるを得ない時代が到来しています。大企業のみならず中小零細企業に至るまで、国境を越えてビジネスを行うことが日常

となり、地域社会の現場でも、異なる文化や言語、価値観を持つ人々と共に生き、共に働く力が、ますます重要になっています。

私自身、スリランカで初めて設立された日系の大学に身を置き、将来日本で働くことのできる高度人材の育成にも力を入れております。彼らが卒業後に日本で就職し、これまで日本に留学してきた外国人留学生の方々、あるいは近年注目される特定技能等の枠組みで来日する人材と、どのような点で異なり、どのような点で接点を持つのか。教育の成果が社会の現場でどのように問われるのか。現場にいるからこそ、強い関心と責任を感じています。

しかしながら、近年の世界情勢の変化は、私たちに新たな課題を突きつけています。「武器を使う戦争」が現実の脅威として存在し続ける一方で、情報、経済、政治思想、世論操作などを通じて社会を揺さぶる「武器を使わない戦争」もまた、身近な不安として語られるようになりました。平和を願う人々の心配の声が高まっていることは、決して他人事ではありません。

こうした時代において、私たちは改めて問い直す必要があります。日本の若者に対するこれからのグローバル人材育成は、何を柱にすべきなのか。「海外に行くこと」、「英語を学ぶこと」自体を目的化するのではなく、実際に海外で何を学び、何を観察し、誰と対話し、どのように協働するのか。帰国後にその経験を社会へどう還元し、地域や組織の変化につなげていくのか。

そして今後さらに増加していくであろう外国人労働者と、国民はどのように共生していくのか。制度やルールの整備だけでなく、日々の現場で必要となるのは、相互理解に基づく対話力、偏見に気づく力、違いを前提に協働する力であり、まさに本学会がこれまで培ってきた知見が生きる領域だと確信しています。

本学会は、グローバル化、グローバル人材育成、多文化共生といったテーマを、理念として掲げる

だけでなく、教育実践と研究の往復によって具体化してきました。今後はさらに、世界情勢の変化という現実と向き合いながら、「平和をつくる学び」としてのグローバル人材育成を、社会へ提案していく役割が求められるでしょう。価値観が揺れ、分断が生まれやすい時代だからこそ、教育が担うべき使命は大きく、本学会の存在意義もまた一層高まっていくと考えています。

最後になりましたが、会長としての4年間を無事に務めることができましたのは、多くの皆様のお支えがあったからこそです。深く感謝申し上げます。今後も一会員として、引き続き学会活動に携わり、学会の発展に微力ながら貢献してまいりたいと考えております。

皆様のご活躍、そして本学会のさらなる発展を心より祈念し、2期目の最後のご挨拶といたします。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

(3) 【支部大会開催の案内】

■ 2025年度 中部・関西 合同支部大会（第9回 中部支部大会/第10回関西支部大会）開催のお知らせ

開催日：2026年3月1日（日）

会場：金沢工業大学 扇が丘キャンパス 23号館
2階（石川県野々市市扇が丘7-1）

https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ogigaoka.html

テーマ：AI時代のグローバル人材育成

※対面とオンラインによるハイブリッド開催

概要：

- ・シンポジウム「高等学校におけるグローバル・コンピテンシー育成:WWL校の取り組みとその成果」モデレーター：服部 孝彦（大妻女子大学名誉教授、文部科学省 WWL 企画評価会議委員）
- ・ラウンドテーブル「グローバル人材教育の担い手養成：学校園・地域社会・AI」日高俊夫（武庫川女子大学）、田中満公子（元大阪教育大学大学院、ReStory CEO）、服部圭子（近畿大学）、杉

本孝美（桃山学院大学）、坂本宗明（金沢工業大学）

- ・研究発表（一般発表 / 学生発表）
- ・賛助会員によるプレゼンテーション
- ・情報交換会

※詳細については学会 HP をご覧ください。（随時更新）

[https://j-agce.org/wp-](https://j-agce.org/wp-content/uploads/2026/02/chukanbranch09-10-2.pdf)

[content/uploads/2026/02/chukanbranch09-10-2.pdf](https://j-agce.org/wp-content/uploads/2026/02/chukanbranch09-10-2.pdf)

■ 第10回九州支部大会開催のお知らせ

開催日：2026年3月7日（土）12:30-16:45

会場：佐賀女子短期大学4号館431・432教室

<https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/information/access/>

テーマ：世界を教室にするグローバル人材育成－複数のキャンパスで育つ知－

開催方法：対面（※基調講演・シンポジウムのみハイブリッド配信）

大会参加費：

会員 無料、非会員 1000円、学生 無料

概要：

- ・基調講演 大六野 耕作（明治大学名誉教授、本学会理事長）
- ・シンポジウム「世界を教室にするグローバル人材育成－複数のキャンパスで育つ知－」
- ・研究発表（一般発表 / 学生発表）コーディネーター：小野 博（本学会名誉会長）パネリスト：アーナンダ・クマラー（ランカ日本ビズテクインスティテューLNBTI 学長、本学会会長）（※オンライン登壇）、北 浩子（九州大学大学院農学研究院 附属国際農業教育・研究推進センター准教授）、張允磨（佐賀女子短期大学地域みらい学科准教授）
- ・賛助会員によるプレゼンテーション
- ・懇親会
- ・特別オプションツアー

お問合せ先：お問合せは、こちらの学会事務局のメールアドレスではなく、以下の連絡先までお願いいたします。

九州支部大会運営事務局：

kyushu.jagce@gmail.com

※詳細については学会 HP をご覧ください。(随時更新)

[https://j-agce.org/wp-](https://j-agce.org/wp-content/uploads/2025/02/con_12-3.pdf)

[content/uploads/2025/02/con_12-3.pdf](https://j-agce.org/wp-content/uploads/2025/02/con_12-3.pdf)

(4) 【理事会報告】

理事会では、原則として毎月 1 回、メールによる審議を行っています。

2025 年度臨時理事会

議案 1. 次期理事長の互選について 承認されました

議案 2. 次期会長の互選について 承認されました

議案 3. 2025 年度会員総会について 承認されました

協議 1. 推薦理事の選出について 確認いたしました

協議 2. 2026 年度事業計画（案）について 確認いたしました

協議 3. 2026 年度の業務委託について 確認いたしました

協議 4. 各支部の活動計画、支部大会の開催予定について（開催時期、会場等について支部内で協議、管理事務局へ連絡、理事会に報告、HP・ニューズレター等で告知）

協議 5. 編集委員会より報告・確認事項について 確認いたしました

2025 年度 12 月定例理事会

議案 1. 規定整備委員会の設置について 承認されました

2025 年度 1 月定例理事会

議案 1. 次年度における各支部から挙げられました推薦理事について 承認されました

議案 2. 規定整備委員長に内田富男先生を理事室より推薦について 承認されました

(5) 【編集委員会報告】

学会誌第 14 巻第 1 号への投稿は、研究論文 2 件、研究ノート 2 件、実践研究 2 件、論壇 1 件でした。第 14 巻第 2 号の投稿期間は 7 月 1 日から 7 月 31 日です。多くの投稿をお待ちしています。

(6) 【管理事務局からのお知らせ】

【2026 年度の会員資格について】

本学会の会員資格は自動更新となっております。退会手続きを行わない場合、会員資格は自動的に更新されます。

【登録情報に変更が生じた場合のお手続きについて】

4 月以降、現在ご登録いただいているご所属先・職位・メールアドレス・お住まいの都道府県のいずれかに変更が生じた場合は、下記のお問い合わせフォームより変更手続きをお願いいたします。

https://j-agce.org/contact_form/

【編集担当退任のご挨拶】

本号をもちまして、ニューズレターの編集担当を退任いたします。これまで本誌の編集に際し、ご理解とご協力を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。次号以降は新体制のもと編集を行ってまいりますので、引き続きよろしく願い申し上げます。（天木勇樹）

【文責】アーナンダ クマーラ

【編集】天木 勇樹